

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和8年2月分）

【製 造 業】

- 12月の鉱工業生産指数は前月比4.3%上昇となった。ヒアリングでは、受注及び利益については横ばいまたは若干良い状態であり、今後の見通しとしては、多少の上下はあるものの、大きな変動なく推移していくとの声や、中国の現地法人が製造し日本に輸出している部品については旺盛な需要があるが、日本で製造し東南アジア、北米方面へ輸出する部分がなかなか奮わないとの声が聞かれる。
- 地場産業は、12月の鉱工業生産指数は木材・木製品、食料品、繊維工業、家具。パルプ・紙で下降した。ヒアリングでは、国際情勢の不安定化や為替相場の変動、物価高騰の影響を受け、足元の景況感は総じて悪化しているが、訪日観光客向けの土産需要に合致した商品や輸出向け商品は引き続き堅調との声や、物価上昇の影響が大きく、低価格帯商品の動きは一定程度見られるものの、中価格帯以上の商品の動きはほぼ止まっている状況との声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、1月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比25.3%増加となった。ヒアリングでは、設備投資の必要性を認識する企業は多いが、人員不足や資金面の課題から着手できないケースが目立つとの声や、既存設備の補修・更新ばかりで、生産・販売能力の拡大等の前向きな投資が少ないとの声が聞かれた。

【個人消費】

- 個人消費は、1月の販売額は、全体で前年同月比3.2%増加となった。ヒアリングでは、レジ客数が伸長しており、館内を買いまわる客数が増加しているため、売上は好調の見通しとの声が聞かれた。

【観 光】

- 宿泊者数は、前年同月と比較しマイナスになったものの、コロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 1月の制度融資実績は金額で2ヶ月連続で減少となった。金利上昇局面において、長期固定の商品のニーズが高まっているとの声が聞かれた。

【雇 用】

- 1月の有効求人倍率は1.41倍と前月比▲0.01ポイントとなった。ヒアリングでは、新卒採用について準備を進めているが、引き続き売り手有利の市場であり、新規採用ができるかは分からないとの声や、来月から受注増の計画があり、加工部門でも、検査部門でも人員不足となる見込みとの声が聞かれた。待遇面については、最低賃金の水準では応募が集まらないため、相場より高く設定して採用を試みているが、それでも難しい場合は最低賃金での外国人雇用に頼らざるを得ないとの声が聞かれた。

【景気動向】

12月の景気動向指数（一致指数）は前月比1.8ポイント上昇、1月の中小企業の景況感は同▲1.0ポイントとなった。
--